



# 加藤神社御由緒



## 《 境内案内 》



熊本三大手水鉢。重臣大木邸にて使用



文祿の役記念で持ち帰られた太鼓橋。出世橋とも言われている。



熊本城築城の際、天守閣前の大銀杏と共に清正公がお手植えされた



清正公旗立石。明治42年肥前名護屋城より移設。

## 境内末社 「白鬚神社」



- 白鬚大明神
- 大国主神  
《猿田彦大神》(福徳円満の神)  
(道開き・導きの神)
- 菅原道真公  
(学問の神)
- 恵比寿神  
(商売繁昌の神)

## 【清正公(せいよこ)まつり】

清正公まつり奉賛会



境内での神賑行事「清正公夜市」と、御神幸行事「清正公まつり神幸祭」が行われます。粋でいなせな「神輿の競演」や子どもたちが清正公に扮する「千人清正」などが神社を出発し、市内を練り歩きます。

## 【加藤神社子供会】

キャンプ・田植え・稲刈を始め、毎月神社子供会ならではの行事を開催。問い合わせや申し込みは社務所まで。



(子供会田植え)

## 【加藤神社崇敬会】

清正公のご神徳昂揚の為の事業を行う。  
個人会員(年会費) 一口 三千元  
法人会員(年会費) 一口 一万円

## 【青志会】

(崇敬会青年部) 毎月八日、例会。神社祭事や子供会を支え、祭りではお囃子を。随時入会受付中。

## 【結婚式ののご案内】



多くの方が熊本城内のこの地より夫婦の道をスタートされています。詳しくはホームページをご覧ください。竹灯笼を灯す宵の婚礼も人気です。

## 加藤神社社務所

〒860-0002 熊本市中央区本丸2番1号

☎ 096-352-7316

✉ info@kato-jinja.or.jp

http://www.kato-jinja.or.jp





【御祭神】

《主祭神》

かとうきよまさこつ

加藤清正公

《陪神》

おおきかねよしこつ

大木兼能公

かんじんきんかんこつ

韓人金宦公



加藤清正公〔永祿五年（一五六二）〜慶長十六年（一六一一）〕は、戦国時代の智仁勇兼備の模範的武将として、また、熊本に於ては、日本三名城・日本三堅城の一つである熊本城の築城と、それには始まるこの富国安民の国づくり政策を推し進められた方であります。それは、全県下に亘る土木・治水工事をはじめ、干拓・開墾・植林・交通の便の為の街道づくり、焼物等幾多の国の発展の礎となる産業の奨励保護、学問の奨励・文化の開拓等と一つひとつ列挙すれば限らない程の偉業であります。さらには武将としての清正公は、単なる勇しいばかりの武士でなくして、常に大義名分を重んじられると共に、上には忠と義を以って、下には慈悲と情を以ってあたられた信仰心の豊かな方であります。

この様に、清正公の五十年の生涯は、実に至誠にして高潔なる人格者であり、いつの時代に於ても尊崇敬慕されるにふさわしい理想的日本人であられるとともに、熊本県民にとっては、熊本発展の礎となる有形無形の役割を果され、また、後の世の為の政事をされた大恩人で、清正公をお祀り申し上げる加藤神社は、肥後総鎮護と言ふべき神社であります。

【由緒】

慶応四年 熊本藩主細川昭邦公の弟長岡護美公の建議により明治元年朝廷より神祭仰出され、浄池廟を神道儀式にて守護する。  
明治四年 神仏分離の際熊本城内に神宇を創建し錦山神社と公称する。  
明治五年 神祇官を経て大木兼能・韓人金宦公の両霊を合祀する。  
明治七年 明治六年に熊本鎮台が置かれ、城内が悉く陸軍用地に編入された為に、京町台に改築遷座奉祀する。



(明治4年創建当時)



(京町へ遷宮後)

明治八年 社格を県社に列せられる。(昭和二十一年社格制度が廃止)  
明治十年 西南の役に際し、社域は交戦の衝路となり手水鉢以外建物悉く焼失する。(御神体は事前に健軍神社に移し奉護する)  
明治十一年 陸軍中佐乃木希典氏西南の役戦勝報賽の参拝をされ祭文を奏上される。(直筆の祭文は御神玉として所蔵)  
明治十七年 社殿再建に着手し、十九年に竣工遷宮する。  
明治四十二年 清正公三百年祭を斎行し、社号を加藤神社と改称する。同年閑院宮殿下の御参拝あり幣帛料を供進される。  
同年陸軍大将乃木希典氏より太刀一振薙刀一本献納される。



(西南の役後再建)



(城内へ遷宮前)  
昭和37年頃

明治四十四年 伏見宮殿下の御参拝。同年米領ハワイ在留民の懇請により現地に加藤神社創建。  
大正三年 朝鮮京城府龍山有志者の懇請により現地に加藤神社を創建する。  
昭和六年 昭和天皇の勅使として侍従山県公爵が幣帛料を下賜される。  
昭和三十七年 永年の熊本城内遷宮の宿願叶い現在地に遷宮する。  
昭和四十六年 御創建百年を記念して、御鎮座百年記念大祭を斎行する。  
昭和五十年 夏祭りに神幸行列を復活する。(昭和五十七年より清正公まつりに改称し、昭和六十年清正公まつり奉賛会を組織する)  
昭和五十一年 青少年の健全育成と教化を目的として子供会を結成する。  
昭和五十二年 御神徳の昂揚を目的として崇敬会を結成する。(平成六年に青年部を結成)  
昭和六十二年 清正公肥後入国四百年記念大祭を斎行する。(境内に記念碑建立)  
昭和六十四年 城内遷宮四十年記念大祭を斎行する。(記念事業として御社殿並びに社務所の改修改装工事等を行う)  
昭和六十九年 熊本城築城四百年記念大祭を斎行する。(肥後本妙寺池上副住職神前にて法華経読経)  
昭和七十九年 忠広公配流の地庄内丸岡天澤寺より忠広公尊像里帰り。(加藤大神の御前に安置し親子の御霊の再会を三七六年ぶりに果たす)  
平成二十年 加藤清正公生誕四百五十年没後四百年記念大祭を斎行する。(名古屋清正公の生誕の地妙行寺安藤住職神前にて読経)  
平成二十三年 出羽庄内・黒川能(忠広公が当地で鑑賞されたとされる国の重要無形民俗文化財)を境内特設舞台にて奉納。大祭にて謡曲奉納。  
平成二十四年 城内遷宮五十年記念大祭を斎行する。忠広公終焉の地天澤寺庄司住職、忠広公の尊像を奉持し、神殿内に安置して神前読経。  
(京町旧鎮座地「現スカイハイツ熊本内」に記念碑建立)  
令和三年 御創建一五〇年記念大祭を斎行。記念事業「和魂祭」を行い、清正公狂言「熊本三獣士」を境内にて初演。  
令和四年 城内遷宮六〇年記念大祭を斎行。境内整備事業「令和の大造営」を開始する。